

第7回教育委員会会議録

日 時	平成27年6月26日 開会13:00～閉会14:40
会 場	教育長室
出 席 者	山 田 律 子 委員長 佐々木 義 朗 委員 阿 部 弓 枝 委員 明 石 光 正 委員 宮 崎 肇 教育長
参 与	島 倉 弘 行 教育部長 澤 田 徹 教育部次長 西 野 典 男 教育部次長（学校指導担当） 荒 川 裕 昭 企画総務課長 竹 内 浩 二 生涯学習課長 井 鳥 秀 司 文化施設課文化施設係長
書 記	堀田 企画総務課総務係長
議 題 及 び 議 事 の 概 要	別紙のとおり

議題及び会議の概要

委員長	<p>ただ今から、平成 27 年第 7 回教育委員会会議を開催いたします。 会議録の承認をお願いいたします。</p>
総務係長	<p>前回、5 月 27 日に開催されました第 6 回教育委員会会議は議案が 5 件、議案第 1 号平成 27 年千歳市議会第 2 回定例会教育行政方針及び教育行政報告について、議案第 2 号千歳市奨学生の選考及び奨学金額の決定について、議案第 3 号千歳市教育支援委員会委員の委嘱及び任命について、議案第 4 号千歳市学校給食センター運営審議会委員の委嘱任命について、議案第 5 号千歳市立公民館条例の一部を改正する条例の制定について、以上 5 件の議案は全て原案通り議決しております。</p> <p>また、報告は 4 件、報告第 1 号千歳市奨学生選考委員会委員の任命について、報告第 2 号平成 27 年度補正予算について、報告第 3 号平成 26 年度公益財団法人千歳青少年教育財団の経営状況を説明する書類の提出について、報告第 4 号学校適応指導教室おあしす通級生の卒業後の進路について、以上の 4 件でございました。</p>
委員長	<p>会議録承認の件よろしいですか。</p>
委員	<p>一同了承</p>
委員長	<p>本日の議題中、議案第 1 号千歳市社会教育委員の委嘱について及び議案第 2 号千歳市公民館運営審議会委員の委嘱については、個人情報が含まれますので、秘密会といたします。</p> <p>秘密会の件についてよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>一同了承</p>
委員長	<p>教育長から報告をお願いいたします。</p>
教育長	<p>6 月の定例校長会でお話しした内容についてです。</p> <p>1 点目は、5 月に全校長と面談を行ったなかで各学校の主な取組のなかで特徴的なものを他の校長へ紹介し、取り組めるものはやっていただきたいという趣旨でお話ししたところです。</p> <p>また、校長面談を通じて私が感じたこととして、ICT 機器活用能力の向上に向けた校内研修の充実、学習規律の徹底、いじめに関しては組織的な対応を図ることが重要、校内研修と日常的な教職員間の情報交換の確実な実施、新体力テストを全学年で実施、小中連携教育の推進を図るための具体的な取組の実施をお願いしました。</p>

2 点目は、体罰防止に向けた取組の推進ということで、道教委による平成 26 年度の実態調査の結果が公表されました。

体罰件数は 33 件で前年度より 13 件の減少。体罰が行われた場面は、授業中が 11 件、部活動中が 6 件、休み時間が 2 件、その他 14 件ということでした。体罰の態様は、殴る 22 件、蹴る 2 件、殴る及び蹴る等 4 件、その他 5 件。体罰を把握したきっかけは、保護者からの訴えが 16 件、児童生徒からの訴えが 12 件、教員の申告が 12 件などです。体罰に関する研修を受けたことがあると回答した教職員の割合は 50.9%であり、道教委は依然として相当数の体罰が発生していることは大変遺憾とし、事実関係を調査の上、厳正に対処する方針です。

各学校においては指導資料「望ましい指導の在り方」等を活用し、校内研修を繰り返し実施するなど教職員の認識を深めさせるとともに、コンプライアンスの徹底に取り組むこと。また、万が一にも体罰が発生した場合は、速やかに市教委へ報告するとともに、迅速に調査を行い、被害を受けた児童生徒やその保護者に対し、事実経過や今後の改善策などについて説明するなど適切な対応を依頼しました。

3 点目は、交通安全教育の徹底ということで、道路横断の仕方や自転車の乗り方についての指導の徹底、特に小学 1 年生は通学にも慣れ緊張感が緩む頃であるので再度指導を徹底するよう話しました。

4 点目は、夏季休業中における学習サポート事業について、各学校において積極的な活用をお願いしました。今年度は小学校 10 校、中学校 4 校が実施する予定です。

5 点目は、千歳市ハイパー Q U 研修会について、全教職員を対象に 7 月 30 日に勇舞中学校において実施することとしており、積極的な参加をお願いしました。

6 点目は、e-カレッジの活用推進について、積極的な取組みをお願いしました。

7 点目は、第 2 回定例市議会の質問事項について、お話ししました。

話は変わって、全国都市教育長協議会総会のお話しですが、これまでに旭川市と鹿児島市での総会に出席し、本年度は神奈川県厚木市へ行ってきました。いつも全国の先進事例を聞くたびに北海道はまだ少し遅れているという感覚なのですが、今回特に印象的だったことが、高松市と岐阜市の取組です。

高松市は小中一貫教育或いは連携教育を全ての中学校で行っています。高松は施設一体型の小中一貫教育が 1 施設あり、その他は施設は小中で別々なのですが連携型の小中一貫教育を行っています。

岐阜市では、全ての学校で一斉にコミュニティスクールを実施したということです。また、岐阜では小学校の外国語活動に熱心に取り組んでおり、小

委員長	<p>学校の英語を教科化し小学校1年生から実施しているとのことです。</p> <p>今申し上げた小中一貫教育、コミュニティスクール、小学校の英語の教科化については、中教審や国が今後進めようとしていることを先進地ではすでに行っているということです。</p> <p>教育長からの報告についてご質問やご意見等ございませんか。</p> <p>議案第1号千歳市社会教育委員の委嘱についての説明をお願いします。</p>
委員	一同了承（秘密会：原案可決）
委員長	次に議案第2号千歳市公民館運営審議会委員の委嘱について説明をお願いします。
委員	一同了承（秘密会：原案可決）
委員長	次に報告第1号平成27年度標準学力検査・知能検査の分析について説明をお願いします。
教育部次長 (学校指導担当)	<p>報告第1号平成27年度標準学力検査・知能検査の分析についてご報告いたします。</p> <p>標準学力検査・知能検査は市内統一実施から3年が経過しました。3年間の資料が得られたことによって学校、学年、教科における経年変化を比較できるようになりました。</p> <p>標準学力検査は小学校2年生から6年生まで、中学校1年生から3年生までが、前の学年の学習内容がどの程度定着しているかをはかるものであります。</p> <p>教科別の結果についてであります。学力偏差値については、市内全ての学校、全ての学年の合算で全国平均を50として比較しております。</p> <p>小学校国語は全国平均を上回る成績を維持しております。漢字や慣用句などの使い方を問う伝統的な言語文化と国語の特質の領域では、ほとんどの学年で全国を上回る結果となっており、基礎学力が定着していると言えます。</p> <p>小学校算数の結果では、過去3年間で全国と同様の学力を維持しております。しかし、例年成績が良くない領域もございます。</p> <p>中学校では、英語と国語で全国を上回る水準を維持してあります。数学は上昇傾向が続いておりました。理科と社会では1年生の成績が思わしくなく、5段階の分布では1の段階の生徒が10%を超えており、小学校の学習内容の定着が充分とは言えない結果であります。</p>

学年別の結果では、小学校2年生は、国語と算数で全国を上回り、5段階分布では5の段階は少ないものの4の段階が多く、全ての領域で全国を上回っておりました。小学校3年生からは、経年の成績の変化も把握できています。

小学校4年生は、国語は全国を上回りますが、算数は全国と同様の結果となっております。経年変化から見ると2年生から年々成績が低下しております。算数の5段階分布からは1の段階が7%から11%に増えておりまして、5の段階が4%から9%に増えておりますというこは、学力の分布の二極化が進んでいるということも考えられます。

小学校5年生も小学校4年生と同様の傾向であります。経年変化からはやや上向き傾向がありまして、4年生での学習内容の定着が図られています。

6年生では国語は全国を上回っておりますが、算数は全国をやや下回る結果となりました。当該学年の経年変化をみると4年生から緩やかに上向き傾向にあることがわかります。

中学校1年生では、国語と数学で全国を上回っておりますが、社会と理科が全国を下回っており、この検査結果は4月実施であるために、小学校6年生での学習定着が良くないということを示しております。教科別の5段階分布をみても社会では1の段階が14%、理科でも1の段階が13%と多い結果となっております。

中学校2年生では、英語は全国を上回り、国語と社会と数学は全国と同様、理科は全国を下回っております。経年変化からは中学校1年生での学習状況から理科と社会が上昇傾向にあることがわかりました。

中学校3年生では、国語が全国を上回り、社会と理科と英語は全国と同様、数学は全国を下回っております。経年変化をみると国語と理科の成績が著しく向上しております。

学校別の結果について、小学校は国語と算数の合算であります。中学校は2年生と3年生が国語と社会と数学と理科と英語の合算です。

全国平均50から0.5ポイント以上上回った学校は、昨年と比較して小学校で2校、中学校で1校増えております。

全国平均を0.5ポイント以下下回った学校では、学校数は昨年と同様ですが、3年間で徐々に上昇している学校もあります。

知能と学力の相関についてであります。千歳市では、知能検査は小学校2年と5年、中学校では1年生で検査を行っています。市内の結果は、小学校2年生では51.7、5年生では51.1、中学校1年生は50.8と全国より高い結果となっております。知能と学力の相関であります。知能偏差値と学力偏差値を比較して、知能の程度に応じた学力がどの程度身につけているかの関係を示すものです。知能検査の結果に比べて学力検査の結果がかなり良いことをオーバーアチーバーといい、その逆をアンダーアチーバーといいま

す。知能相応の学力が身につけていることをバランスアチーバーといいます。一概には言えませんが、オーバーアチーバーアチーバーの生徒は、自身が本来持っている以上の努力をしていると考えられます。そこには、家庭環境や学校での学習などの生活環境も関係しているものと考えられます。

市内の経年変化を比較すると小学校2年生ではアンダーアチーバーが減少し、オーバーアチーバーが増加しております。

最後に成果と課題ですが、教科別の成績からは、小学校についてみると国語の学力偏差値が51.1、算数は50.0と全国平均を確保しており、ここ数年向上傾向にあります。特に、小学校6年生の経年比較を見ると、3年間で1の段階の児童の割合が11%から4%まで減少しており著しい向上が見られます。これは、各学校が千歳市が独自に設置している学習支援員や特別教育支援員を活用したきめ細かな指導などによって児童ひとり一人の学びが充実したものによると考えられます。

中学校についてみると、国語の学力偏差値が50.7、数学が50.1、英語が50.3、3教科で全国水準を維持しており、数学はここ数年上昇傾向にあります。しかし、社会と理科は足踏み状態にあり、特に1年生においては5段階分布での1の段階が10%以上を占めているということで小学校から中学校への教育課程の接続など指導の改善が課題となることから、小中連携を一層進める必要があると考えられます。また、教科で確実に習得すべき内容につきましては、重点的な指導を行うことが重要であると考えられます。

学年別の成績では、同一学年の経年変化を行うと小学校3年生と4年生の成績が年々低下傾向を示しておりまして、5年生から中学校にかけて回復するという様子が見受けられます。4年生においては顕著な傾向を示しておりまして、算数においては、2年生から4年生にかけて学力分布の二極化が進んでいます。小学校3・4年生で学力の低下がみられる場合には小学校2・3年の学力の定着が不十分であると考えられます。

これらのことから、小学校2・3年生における指導の充実が課題となっていると考えております。今後、各学校から聞き取りを進めたりするなど、実態を把握し対応を図ってまいりたいと考えております。

なお、これらの経年比較については3年前から千歳市の施策として標準学力検査を統一して実施することで可能となったもので、今後も引き続き児童生徒の学習の状況をしっかりと捉え、成績と成果と課題を明らかにしていきたいと考えております。

今後は、全国と千歳の全体の結果を比較し、各学校では自校の特徴を明らかにして学校経営に活かしていくこと、前年度の学習の不十分な部分については学力向上検討委員会が作成した授業の改善案や各学校のドリルを活用して繰り返し指導を行っていくことが大切であること、それと、学力向上検討委員会で提言している項目について一層の充実を図るよう取り組みを

委員長	<p>進めていきたいと考えております。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>小学校から中学校への接続の部分で、社会や理科の定着が不十分ということでしたが、先程来話題となっておりました小中の連携を進めると結果がどのように変わっていくのか興味があるところです。</p> <p>委員からご質問やご意見などございませんか。</p>
阿部委員	<p>検査の結果は全ての教員に伝わるのですか。</p>
次長（学校指導担当）	<p>校長会を通じて市の傾向と自校の結果を示していきたいと考えております。</p> <p>なお、各校には既に自校の結果は送達されており、分析はされている状況にあります。</p>
明石委員	<p>小中一貫教育の一番の目的は、学力向上にあるのでしょうか。</p>
教育長	<p>新しい環境へうまく適応できないといういわゆる中1ギャップの解消、それらの障害を減らすことで学力向上につなげるということがいわれております。また、逆にそのようなギャップを乗り越えていく力を育てていくことも大事なことでではないかという意見もございます。</p> <p>小中連携をモデル的に実施してきた学校では数値的に不登校の割合が減少したということや学力が向上したというデータはでています。</p>
佐々木委員	<p>中学校区の小中の教諭間のコミュニケーションは。</p>
教育長	<p>千歳中学校や青葉中学校で行っています。</p> <p>その他でも出前授業などを行っているのですが、定期的に情報交換できるような組織をつくっていただきたいということを校長に話しています。</p>
教育部次長（学校指導担当）	<p>例えば、千歳中学校が生活習慣の見直しをしましょうということで、睡眠時間や学習時間を中学校ではこのように取り組んでいるということを受けて、千歳小学校が千歳トライという生活習慣の見直しの取組をはじめているなど、生徒指導面の引継ぎだけではなく、生活面や学習面の連携や接続に繋がっていき、その第一歩として、先程の出前授業などに取り組んでいるところです。</p>
委員長	<p>その他、報告第1号についてご質問やご意見などございませんか。</p>

委員	報告第1号（報告済）
委員長	これもちまして本日の会議を終了します。